

No.	委員氏名	議題3	
		意見	コメント
1	滝田 良子 (会長)	待機児童解消は市民にとっても早期解消を望むところである。しかし、新施設整備と併せ、既存施設への運営（経営）に支障のないあり方を市の責任として考慮していくべきと思う。例えば、常に入園率の低い小規模保育園の存続などについて、きちんと検証の上、計画すべきと考える。	今後、保育所等の施設が過剰となった地域におきましては、公立保育所の役割等を勘案しながらその供給量について検討する予定であります。また、小規模保育施設につきましては、様々な保育の特色を持った施設が多いことから、このことを広く保護者等に周知し、各施設の利用者確保のに向けた支援を行っております。
2	平栗 裕治 (副会長)	<ul style="list-style-type: none"> 待機児童の多くは、1歳、2歳児であるので、1歳2歳児に特化した施設整備も選択肢とすることを望みます。 新設設定場所は事業者が選定するのではなく、市が設置場所の適正基準を作成設置することを望みます。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者においては就学前まで同じ施設で教育・保育の提供を受けることを希望する傾向にあることから、令和2年度の施設整備計画においては認定こども園及び民間認可保育所に限定した公募を行いました。 施設整備における具体的な設置場所につきましては、市が適正基準を設け整備地を限定することで土地の取得がより困難なものになりかねないことから、募集要項への特段の定めはなく事業者の裁量に委ねております。なお、既存施設や応募状況などの情報は応募した全事業者に周知いたしました。
3	吾妻 利雄	令和2年4月1日現在で、22名の待機児童がいますが、一方で、特に小規模保育園等では、定員に満たない施設が多々見受けられるように聞いています。今後、継続入所児も含め現在認可保育所施設の利用定員の確保にも努めていただきたいと思います。	こども育成課窓口において保育所等の入所申し込みの際に施設の空き状況をお知らせするとともに、各施設の保育の特色を紹介するなど各施設の利用者確保に向けた支援を行っております。
8	三瓶 令子	待機児童数が年々減少し(地域に多少バラつきはあるようですが)施設数が増加している事は評価できると思います。今後は、ソフト面(保育士の数の確保・質の向上)との両立かと存じます。保育者の養成に携わる者として考えさせられます。	貴重なご意見として参考にさせていただきます。
14	安田 洋子	継続申込者数は増えている現状がわかりました。小規模保育施設が定員割れしているの聞きましたが、マッチングはしないのでしょうか。	小規模保育施設につきましても、他の認可保育所と同様、入所調整の対象としており、年齢別定員で考えますと、待機児童のほとんどを占める1歳児については、ほぼ充足した状況であります。なお、例年、年度途中から0歳児申込が増加するため、入所者は今後増加するものと思われま
15	箭内 孝仁	<ol style="list-style-type: none"> 待機児童の推移で、継続入所申込者が増加した要因は？ 1才児が101人継続入所申込者が増加している要因は？ 富久山地区で継続入所申込者の1才児が多い要因は？ 見解をお願いしたい。 認可保育所等施設及び定員数の推移で、多いのか少ないのか比較対象にならず一概に言えないが、他市町村と比べどうなのかわからない。 また、郡山市の1才児～5才児の総数に対し何名が継続入所申込者なのか全体的に示してほしい。 	<ol style="list-style-type: none"> 入所調整前の繰り上がり在所児のうち、0歳児から1歳児に繰り上がる在所児が昨年度488人から今回550人と、比較して62人多かった（つまり0歳児の入所児童が多かった）こと、及び施設整備が計画どおり進捗せず、受け皿が不足したためと考えられます。 富久山地区を含む北部地区において子どもの数が増えているにも関わらず、認可保育所が不足しているためと考えております。 認可保育所数及び定員数の推移につきまして、厚生労働省が公表している「保育所等関連状況取りまとめ（平成31年4月1日）」によりますと本市における平成31年4月1日現在における前年からの定員増加数は476人で、利用定員数が100人以上増加した全国233地方自治体のうち47番目となっております。なお、郡山市の1歳児～5歳児の総数は令和2年4月1日現在の住民基本台帳人口13,057人に対し申込児童数が4,910人、継続入所希望者は205人となっており、申込児童に対する継続入所希望者の割合は約4.2%となっております。